

みんなの環境

第35号 2013年8月31日

編集/発行 あつぎ環境市民の会

http://www.geocities.jp/atsugi_kankyo/

これからを、生きるために知っておきたいテクノロジーのこと 世界が食べられなくなる日 上映会のご案内



いま、話題のドキュメンタリー映画です。

日本に遺伝子組み換え作物が輸入されてから16年余り。当初から生物多様性の破壊、人体への影響が心配されていました。いまや日本は世界一の遺伝子作物の輸入国です。有害物質が体内に蓄積され後戻りできない事。また、目に見えず危機を危機と感じにくいという点で、放射能の内部被爆と遺伝子組み換え作物の危険性は、とても良く似ているのではないかと感じます。子どもたちの未来を守るため、いま世界で何がおきているのか？これから日本でも起こりえることを推測するために、知っておかなければならない重要な情報だと思います。

多くの方々にお奨めいたします。是非、みなさまお誘いあわせのうえご来場ください。

映 画 / 世界が食べられなくなる日 (118分)

会 場 / 厚木市文化会館小ホール

期 日 / 2013年11月8日(金) 2回上映

15:00～(幼児同伴可、幼児のお席が必要な場合は子ども料金でご入場ください)

18:30～(一般対象、未就学児入場は不可)

入場料：前売り券 大人 1,000円、子ども(中学生以下) 500円

当日券 大人 1,300円、子ども(中学生以下) 500円

前売り：厚木市文化会館(046-224-9999)・晴れ屋(046-295-1161)

主 催/あつぎ環境市民の会 後援/厚木市、厚木市教育委員会

賛 同/厚木市農業協同組合(JA あつぎ)、生活クラブ生協厚木コモンズ、福祉クラブ生協ワーカーズコレクティブすみれ、ポラン広場の宅配

食と環境の安全が危機

不自然な 遺伝子組み換え作物

山本智子*

ヨーロッパでは生産、流通なし

日本で初めて遺伝子組み換えした農作物を承認したのは 1996 年の「除草剤の影響を受けないダイズ」です。そして現在、国内での遺伝子組み換えの作物の栽培こそありませんが、ダイズ、トウモロコシ、ナタネ、ジャガイモ、綿、てん菜、アルファルファが輸入され流通しています。世界におけるこれらの作付け面積は日本国土の約 1.8 倍で、米国(ダイズ、トウモロコシ)、アルゼンチン(ダイズ)、カナダ(ナタネ)、ブラジル(ダイズ)、中国(綿花)が主な生産国です。一方、ヨーロッパでは厳しい規制でほとんど生産、流通もありません。

遺伝子組み換えとは、交配による品種改良とは違い、複数の生物の遺伝子を合体させて新しい生物を創造するものです。ダイズの場合、ダイズに除草剤に耐性を持つ性質を与えると、いくら除草剤をかけても雑草は枯らすけれどもダイズ自体は枯れずに収穫できます。その結果、効果的に除草剤が散布できるので除草剤の量を減らせるといううたい文句で売っている「ラウンドアップ」という除草剤に対しての耐性大豆が有名です。また虫が食べると死んでしまうコーンもあります。

利点は食料問題の解決？

遺伝子の組み換えの利点は、生産性の向上により食料問題の解決への貢献、消費者ニーズに沿った農産物・食品の生産が見込まれる等といわれています。しかし、遺伝子組み換え作物については世界中で賛否が分かれています。予期せぬたんぱく質の発生で 38 人の死者を出したトリプトファン事件(米国)やブラジルナッツの遺伝子を組み込んだトウモロコシを食べた消費者がアレルギーを起こしたり、いくつもの事故が報告されています。また従来種との交配で予期しない新種の作物ができる可能性もあります。生態系の破壊の危険も孕んでいます。さらに遺伝子組み換え作物を自分でタネを取ることができないようにすることで、農家は毎年新しくタネを購入しなければならず、その資金のやり繰りで破産するケースも報告されています。巨大企業のエゴがまかり通るようになってきています。

明確な表示の義務付けを

ところで、日本での私たちの食生活にダイズは欠かせない食材です。豆腐や納豆などを買う時、多くの方がパッケージの裏を気にしているのではないのでしょうか。「この製品は遺伝子組み換えの大豆を使っていません」との表示は安心の印です。しかし、この表示にも問題はあり、「組み換えでない」表記でも重量で 5%未満の遺伝子組み換え作物の混入は許されています。表示義務のない油や少量の調味料の正体は消費者には分からないままです。消費者が安心な食生活を送れるように、選択にあたり明確な表示を義務付けてほしいところですが、これも簡略化の方向であるらしく、私たちは知るすべもなく不安なものを口にしかるに怒りを感じます。

目先の経済優先政策により、食と環境の安全が危険にさらされていることに多くの人が気づき声を上げない限り現状を追認することになります。食をめぐる大変に重要な問題提起の映画「世界が食べられなくなる日」の上映に多くの方の参加を期待します。

* (やまもと ともこ あつぎ環境市民の会 厚木市在住)

この会報にみなさんの環境への思いや情報を載せましょう。原稿は随時受け付けています

下水処理施設を見学

川へ帰る道のり知る

5月30日、9名で神奈川県公益財団法人の四之宮管理センターを見学した。ここでは毎日322,800 m³の下水を処理している。下水処理施設の役割としては大きく分けて4つある。川や海を汚さない。水を甦らせる。次に衛生的になるため、快適な暮らしや美しい街になる。最終的に残る灰をセメント等の原料に利用するように、資源として役立て、さらには下水道の設備が整うため、たとえ大雨が降っても安心である。

実際に見学して、外観は想像したよりも綺麗であった。それは、処理施設が並行ではなく、ふれあい公園があり、かなり整備されていて驚いた。施設内部は作動しているにも関わらずに静かだった。一番印象が強いのが、下水から大きなゴミと砂、泥や野菜くずなどを取り除いた後に通る反応タンクである。独特のにおいを放っていたが、ポンプからの泡と水流、そして微生物の働きにより、下水が綺麗な水に変わることには衝撃を受けた。その後、微量の塩素を滴下し川へ放流する。

今回の見学は、以前から興味があったので私も会員もとても満足した。機会があれば、他の下水処理施設を見学して違いがあるのか知りたい。
(松下泰行)

二酸化窒素の測定結果

6月6日、7日に厚木市内33地点で、NO₂測定のため捕集管を設置・回収を行った。

表1 捕集管設置場所とその濃度(H25.6)

ポイント	場所	濃度 [ppb]	ポイント	場所	濃度 [ppb]
KR-01	金田交差点	52	KR-02	相模大橋際	34
KR-03	荻野新宿	7	KR-04	厚木病院	19
KR-05	バスセンター	36	KR-06	厚木小学校	13
A-1	妻田西 2-6-22	15	A-2	妻田西 1-7-3	21
A-3	松枝 2-5-17	16	A-4	水引 2-6-29	24
A-5	栄町 2-6-28	41	A-6	恩名 421-2	15
A-7	恩名 33	24	A-8	船子 576	17
A-9	岡田 3002	14	A-10	反町 3042	11
A-11	中町 1-4-3	25	A-12	中町 3-17	17
A-13	恩名 824-1	20	A-14	恩名 1505	6
A-15	沖原 1557	15	A-16	温水西 2-25	28
A-17	毛利台 1	18	A-18	愛名 538	17
A-19	旧青学大学	3	A-20	森の里 2-11	2
B-1	三田 3428	19	B-2	鳶尾西公園	6
B-3	下荻野 1050	14	B-4	三田 745	12
B-5	三田 1550	18	B-6	蓮生寺境内	2
B-7	金田 1641-1	19	*ppb …10億分の1を表す		



結果は表1のように、最小は2ppbで、最大のKR-01地点は基準値上限60ppbを超えていないが、52ppbとなった。また、市内の南北を示すA-1~10地点では11~41ppb、市内の東西を示すA-11~20地点は2~28ppb、中心部A-5地点は41ppbで、前回も行ったB-1~7の7地点は2~19ppbとなった。

会発足時から行い続け、神奈川工科大学と連携して5回目になる。そのため、私の考えとしては、今までの結果を踏まえ、協力してくれた人たちと相談したうえで測定地点の変更を検討する予定である。

(松下泰行)

～ 私たちの活動～

音はどうして出来るのかな？

依知南地域子ども教室を応援

平成 18 年から始めた厚木市依知南公民館が主催する「地域子ども教室」を講師として応援しました。



平成 25 年 7 月 22 日(月)9 時～11 時 30 分まで、地域の 3 年生～6 年生を対象に「音はどうして出来るのかな？」と題して科学学習会を企画し、高橋弘毅が講師として参加しました。

参加者は合計 23 名で、わらべうた遊び「あんたがたどこさ」などで学習会を盛り上げ、またいろいろな[音作り]を体験し、最後に昭和初期のゼンマイ動力の蓄音機で当時のレコード盤をかけ鑑賞し、電気が無くても音が出ることを学びました。

具体的には、①竹串の先にハガキを貼り紙ヤスリの上を撫でて発音を確認 ②糸電話つくりで音の伝播を体験 ③太鼓を叩くとローソクの炎が揺れる→音が見える。等を体験しました。

昭和初期のゼンマイ蓄音機はネズミのかじりキズあり、蓋をあけるとピカピカのスイングアームの蓄音機（正價三十圓也）と表示あり「荒城の月」などを鑑賞しました。……「スゴイ省エネ機械だ！」と小 5 女子の感想。

音の速さ体験では、0℃では毎秒 330m、水中 15℃の時は毎秒 1,430m ドーンと花火の到達音から大体の距離がわかるなど話合いました。

最後に、当日配布の資料《五感って何だろう》を利用し「日常疑問に思ったことをメモなど



電気が無くても... 太鼓を叩くと...

して、後で調べることも大切だ」としめくり終了しました。宿題は、「空気が無くても音が出るのかな？」を参加者にプレゼントしました。

公民館が実施したアンケートでは、ものづくりが良かった。友達ができた。などあり好評でした。（高橋弘毅）

事務局からのお願い：11 月 8 日「世界が食べられなくなる日」を上映します。当日ご都合のつく方事務局まで連絡を。お手伝いにご協力ください

みんなの環境 第 35 号 2013 年 8 月 31 日発行

編集・発行 あつぎ環境市民の会 代表 井上允 / 制作 長岡恂

e-mail : mkt.inoue117@gmail.com

事務局 〒243-0122 厚木市森の里 3-4-3 鷺谷雅敏方

e-mail : pxa05613@nifty.com

郵便振替口座 00200-7-132779 (年会費 1000 円)

(C)あつぎ環境市民の会 2013